

日本語教育機関のための自己点検・評価項目

令和7年4月15日
東京リバーサイド学園

本学園は、法務省の告示を受けた日本語教育機関として、日本語教育機関の告示基準第1条第1項第18号2規定されている通り、教育水準の向上と適切な業務運営を継続させる為、自己点検・自己評価項目を定めて、教務及び事務の責任者と校長による改善検討委員会において、点検・評価をし改善点を明確にしている。

【評価】

- A：達成されている。
B：ほぼ達成されているが、不十分なところがあり、改善に取り組んでいる。
C：達成に向けて努力している。
D：達成されていない。／必要性に気づいていない。

1. 教育理念・目的等

評価

1	1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか	A
2	1-2	学校の特色は何か	A
3	1-3	学校の将来構想を抱いているか	A
4	1-4	理念に基づく教育が行われているか	A

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

本学は浅草という日本の伝統的な文化が残る場所に位置し、日本語とともに自然に日本の文化、習俗を習得することができる環境にある。そのような環境の中で様々な国から来日した学生が母国との比較を通して広い視野を身につけ、アジアと世界の友好平和に寄与することができる人材を養成している。授業は初級から上級クラスまで一貫して学生教師双方向のコミュニケーション方法で行い、自分の意志を自然な日本語ではっきり相手に伝えることができるコミュニケーション能力が身につけられている。

2. 学校運営

評価

5	2-1	運営方針は定められているか	A
6	2-2	事業計画は定められているか	A
7	2-3	運営組織や意志決定機能は確立され、効率的なものになっているか	B
8	2-4	人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	A
9	2-5	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	A
10	2-6	学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	B
11	2-7	危機管理体制は整備されているか	B
12	2-8	施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるように整備されているか	A

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

教務・事務と連絡を密にし、効率的な運営をするように努めている。コンピュータシステムを使った在籍管理や授業で使用する資料の管理など業務の効率化は随時進めている。所轄の警察署〈浅草警察署〉や消防署（日本堤消防署）と密に連携し、危機管理体制も整備している。専任教職員は全て日本堤消防署において初級救命講習を受講するようにし、万が一の事態に備えている。また、東京消防庁より応急手当奨励事業所としても認定されている。災害時の避難誘導に関してもマニュアルを作成しているが、非常勤も含めた教職員に今後周知徹底させていきたい。災害時に必要な非常用品なども今年度は準備を進めていく。

3. 教職員

評価

13	3-1	教育理念・目的が教職員間で共有されているか	A
14	3-2	教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	A
15	3-3	教職員評価を行っているか	A

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

教職員は連絡を緊密にし、理念、目的、目標等を共有している。非常勤講師の採用時には必ず学校の教育理念、目的を共有し、賛同して頂いた講師のみを採用している。新しく採用された講師に関しては、専属の担当教師がつきマンツーマンの教案指導並びに模擬授業など徹底した新人教育をおよそ半年間行っている。また、半年に一度は勉強会も行い、教育の質の向上を図っている。毎年9月に学生にアンケートをし教職員の評価を行い、その後校長と個別に面談をし、各教師にフィードバックをして、改善を促している。

4. 教育活動

評価

16	4-1	カリキュラムは体系的に構成されているか	A
17	4-2	授業評価の実施・評価体系はあるか	B
18	4-3	目標に向けて授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	A
19	4-4	成績評価は適切に行われているか	A
20	4-5	各種日本語試験の認定率向上のための指導体制はあるか	A

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

2年間の学習で参照枠B2レベルに到達できるように、初級、初中級、中級、中上級、上級、の体系的なカリキュラムを編成している。主任教師のもとでの模擬授業や授業見学で各教師の具体的な改善点を明確にしている。そして、一年に一回、教師の授業に対するアンケートを学生に実施し、改善点をはっきりさせるようにする。

学習評価は、試験、日常の授業の成績を総合して決定し5段階評価とし、試験等の成績は、5（90点以上）、4（80点以上）、3（65点以上）、2（50点以上）、1（40点以下）の5段階とする。

評価項目は、文法、文字語彙、会話、聞き取り、作文の5項目とし、評価点の点数配分は、学期末テスト70%、授業内テスト20%、課題提出率10%とする。

JLPT取得のための適切な教材の準備をし、指導方法についての各教師間の連絡も密にしている。

5. 学生支援

評価

21	5-1	進学・就職活動に関する体制は整備され、有効に機能しているか	A
22	5-2	学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	A
23	5-3	学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	A
24	5-4	学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	A
25	5-5	保護者と適切に連携しているか	B
26	5-6	卒業生への支援体制はあるか	B
27	5-7	入国・在留関係の指導と支援が適切に行われているか	A
28	5-8	日本を理解するための支援が適切に行われているか	A

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

適切な時期に十分な進路情報を伝え、経験が長い進路指導担当教師による個別の模擬面接などを経て、早めに進路が確定するようにしている。また生活指導担当職員が常に学生に声をかけ、細かい問題や悩みにも対応している。エージェントに対しても緊密に連絡をし、定期的な学習状況の発信も行っている。今後、台東保健所の指導の下、結核検診以外に年に一度の健康診断も実施していきたいと思う。

6. 在留管理と生活指導

評価

29	6-1	入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	A
30	6-2	日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	A
31	6-3	我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	A
32	6-4	常に最新の学生情報を把握しているか	A

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

複数の入管業務申請取次者を配置し、適切な在留管理に努めている。在留関係、日本社会への理解、法令遵守等の理解を目的とし、入学時並びに定期的に、中国・ベトナムなどネイティブ職員によるオリエンテーションを行い、出席率、学費の支払い方法、在留カード・保険証の更新や自転車交通マナーなどをしっかり指導している。また、三ヶ月に一度住所並びにアルバイトの状況調査を行い、学校のデータベースで管理をしている。入力・管理は閲覧権のあるスタッフだけが見られるように保護している。また、生活改善の為の個別のカウンセリングも適宜行っている。昨年度も警視庁による、交通安全、犯罪防止のための講習会を実施し、日本の法令遵守を徹底している。

7. 学生の募集と受け入れ

評価

33	7-1	学生の受け入れ方針は定められているか	A
34	7-2	学生募集活動は、適正に行われているか	A
35	7-3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	A
36	7-4	入学選考は、適切かつ公平な基準に基づき行われているか	A
37	7-5	適正な定員設定及び在籍数になっているか	A

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

現地教育機関（大学、高校等）との密な連携と信頼関係の確立した仲介機関を介して、日本における進学、就職希望の学生の推薦を受けて、現在はオンラインによる面接、選考合格者に入学を許可している。今年度も適正な定員設定及び在籍数となっている。

8. 財務

評価

38	8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	A
39	8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A
40	8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	A
41	8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	B

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

月次単位での予算管理が達成できており、財務基盤は安定している。また四半期ごとに監査役による現金実査、棚卸し資産の確認も実施している。今後も公認会計士及び税理士と連携し、適切な会計処理を継続する。次年度に続き今年度も財務情報公開の体制を整備していきたい。

9. 法令等の遵守

評価

42	9-1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	A
43	9-2	個人情報に関し、その保護のための対策が取られている	A
44	9-3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	A
45	9-4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	A
46	9-5	関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	A

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

日本語教育機関の告示基準に則って出入国管理が行われている。法務省より適正校としての認定を受けている。個人情報保護規定に関する取り組みを教職員は理解、実施している。各種マニュアル等も社内共有システムに掲載されており、常時閲覧可能で不明点は確認できる環境である。自己点検・自己評価の結果は毎年5月にホームページにて公表している。

10. 社会貢献

評価

47	10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	A
48	10-2	学生のボランティア活動を奨励支援しているか	A

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

昨年度は台東区立浅草小学校、富士小学校の2校と異文化交流を目的とした体験交流授業が実施できた。また、学生有志は東京都災害支援ボランティアに登録し、日本堤消防署や日本堤消防団の方と防災訓練や救命訓練などのボランティア活動にも参加し社会貢献をしている。